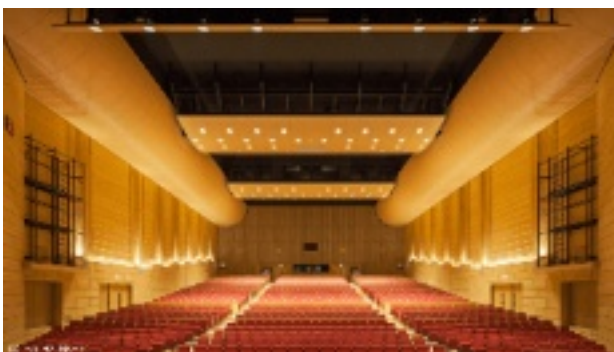


人口3.2万の山形県南陽市、1400席木造ホール建設の挑戦

開館から46年を経過している函館市民会館は耐震診断の結果、耐震指標が大幅に下回り、函館市は補強改修の方針を示しました。市議会では新築をした場合の建設費やランニングコストの比較をすべきとの指摘がありました。たとえ補強改修で延命しても新築しなくてはならない時期は必ず来ます。現在と未来のため、「市民会館のこれからを考える会」は他都市のホール建設から学びたいと考え、学習会を企画しましたのでご参加ください。

- 昭和43年完成の旧市民会館は東日本大震災で一部損壊。耐震診断も基準以下の結果、新築へ
- 1400席のメインホールはギネス世界記録「最大の木造コンサートホール」に認定 500人収容の小ホール併設
- 地元南陽市産杉材利用
- 冷暖房に木質バイオマスボイラー、太陽光発電導入
- 建設費約67億円のうち約30億円が交付金・補助金（森林整備 加速化・林業再生事業、地域経済活性化・雇用創出臨時交付金）



日本最大の木造ホール 南陽市文化会館の建設から学ぶ学習会

お話：山形県南陽市みらい戦略課（文化会館担当）

課長補佐 吉田弘太郎氏

2016. **8.9** [火] 午後6時30分

函館市民会館小ホール

どなたでも参加出来ます

参加費：500円

“文化をはぐくむまち” 函館にふさわしい新しい市民会館の建設を
市民会館のこれからを考える会

（事務局）函館市高盛町22-7 音鑑内

TEL0138-32-1773 Fax32-1775